



ODYSSEY-3

MA日本キックボクシング連盟
9月15日 北沢タウンホール

● 日本ライト級 笛羅崇裕 10勝(1KO) 5敗2分 仙台青葉 (74kg) 61.0kg 28歳	○ 木村允 10勝(6KO) 1敗1分 MAライト級1位 173cm 60.4kg 22歳
● 判定 0-3	● 判定 0-3

笛羅の鼻をへし折った 木村が満を持して、 井上哲の「王座獲り」宣言



3月大会でタクライカンワーンとの試合で、メキメキと実力を付けてきている木村

★その他5回戦の結果
▼73kg契約
ホセイン・キャリミラード(S.B.湘南)【判定2-0】ランボー(東金)
▼ミドル級
マグナム酒井(士道館)【KO2回・1分30秒】井手本高司(八街)

木村允が元NJKFライト級2位の笛羅崇裕に完勝し、同級王者・井上哲への挑戦に向けてアピールした。サウスポー同士の対戦となつたこの試合、序盤は両者ローでやりあい。しかし2回、木村のヒジで笛羅が鼻血でドクターチェック。ドクターの話では鼻骨骨折の重傷だつたそうなのだが、試合は続行。笛羅は大きなダメージを負う事になった。

木村は持ち前のシャープな動きから強烈な左ロー、ヒジなどで笛羅の体力を削り、試合を優位に進める。笛羅も得意の左フックやローで果敢に反撃するのだが大量の鼻血は止まらず、スタミナを消耗し思うように動けない。結局、木村が終始優勢のまま終了、判定は大差がついた。

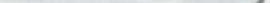
試合後タイトルマッチについて話を振ると、「いつもは『まだ早いんで』と譲避するところを、今回は『ほんとはKOで勝つてアピールしたかったんですけどね。でも上が見えてきました」と肯定。1試合挟んで挑戦、という青筋真を描いている様子で、「周りに(挑戦を)するべきだったって言わせる雰囲気にもつていけるようレベルを上げていきたい」と前向きなコメント。いよいよ機は熟してきた。



「サウスポーは苦手なんですよ。ローもカット出来なかつたし。相手のパンチは重いけど結構見えて、思ったほどじゃなかつたです。後の課題はスタミナですね。鼻が折れてた? 想いとしたりけど…まあ、いかが(木村)。

○井上哲(山木)【判定・2-0】荻野耕嗣(ピクトリー) メインでは木村允の標的、MAライト級王者井上哲が若手の荻野耕嗣に横綱相撲で判定勝利。決め手こそ欠いたがパンチと首相撲を中心に、相手の良さを消す「火消しのテツ」っぷりを全開。危なげない内容だった。木村允については「まだ難な面はあるけど彼はいい選手。いつだって受けてたちますよ」。

★DIGEST
○加藤哲朗(フリー)【TKO2回・1分58秒】
船木壇虎(仙台青葉) 神出鬼没の活躍を続ける元のキックボクサー、元MAライト級王者・加藤が久しぶりに東京に登場。これまで久々のリングとなる、40歳(!)の船木と対戦。ミドルで船木の腕を破壊、さらに首相撲からのヒジで流血TKO勝利した加藤だが「緊張して動けなかつた」と不満顔。



■採点表

	ジャッジ	ジャッジ	ジャッジ
	中川ムアン	中川ムアン	中川ムアン
1R	10	10	10
2R	9	10	9
3R	8	10	8
4R	9	10	9
5R	9	10	9
TOTAL	45	50	45

○打ち合いでは中川のパンチがピッタリする場面もあつたが、展開を積み重ねながらかつた。



ムアンファーレックはパンチを打たなければ、右アップバーが左フックへつなぐコンビネーションで有利である



○余裕のあるムアンファーレックは、パンチを打つまで繰り返す見事なはあつたが、大味な試合運びになつたのは否めない。

○バンタム級/萬謙介(藤本)【ドロー・0-1】尾神和昌(野本塾)2回、若手の注目株・萬神の右ストレートで頭がダウンを奪われるが、後半はボディへの攻撃で動きを止めはパンチを叩き込んでポイントを取り戻した。



Fight II 平和島
新日本キックボクシング協会
9月9日 東京・平和島R'nホール

● 日本ライト級 中川タカシ トーエル 177cm 61.8kg 27歳	○ ムアンファーレック ギヤットウイチアン 元フライ級王者・フェザーリング王者 (タイ) 81勝(6KO) 17敗5分
● 判定 0-1	● 判定 0-1

ムアンファーレックの テクニックは脱帽モノ 中川を封じ、判定で快勝

最終回、中川はバックブローで起死回生を狙うが元王者はしっかりとこれを見切り危なげなく完勝した。元王者は身体の大きさがやりづらかったと語っていたが、中川は重いパンチにKOされなかつたという努力賞に満足せず、このやりづらさを活かし、金星という明確な勲章を貪欲にもぎ取りにいってほしい。(早川)